

砂防林整備体験学習

10月12日（水）遊佐町立遊佐中学校が主催する砂防林整備体験学習に参加しました。当日はくもりで、この時期としては気温が下がり海風も強く体験学習を行うには少し肌寒い天気となりました。

体験学習実施に先立ち、遊佐中学校長より「遊佐中学校伝統の体験学習をとおして、遊佐町を飛砂等の被害から守ってくれているクロマツ林を整備して、いかにクロマツ林が地域にとって大切なものであるかを学んでもらうとともに、整備に当たってはケガをしないように注意しましょう」と挨拶がありました。

この砂防林整備体験学習は、平成12年度から行っている遊佐中学校伝統の活動で、体験学習場所の遊佐町十里塚砂丘国有林1142林班のクロマツ林は、多くの先人達により植林され、地域の暮らしと産業の基盤になっている歴史的遺産でもあり、この大切な遺産を引き継ぎ、郷土のことを深く考える生徒を育成し、郷土を愛する心を育てていこうという趣旨です。

体験学習の参加者は、遊佐中学校第三学年148名（男77名、女71名）、中学校職員11名、庄内総合支庁森林整備課4名、庄内森林管理署1名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、遊佐町3名、北庄内森林組合遊佐支所5名、砂丘地砂防林環境整備推進協議会28名、クロマツをたたえる会10名（佐賀県からのNPO2名含む）の総勢214名で、15班に分かれて体験学習を実施しました。体験学習の内容は、クロマツ造林地の下刈りを実施し、その後、不要木の伐採、刈払い物や不要木を作業道脇に集積する作業を行いました。

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター職員は、4班、8班、12班、15班で、班長を務め中学生やボランティアの方々の作業指導・安全確保等に努めました。

中学生の皆さんは、鎌や鋸を使用した作業に不慣れな学生がほとんどでしたが、北庄内森林組合職員や砂丘地砂防林環境整備推進協議会の方々の懇切丁寧な指導と学生の皆さんの頑張りでクロマツ林が見違えるほど綺麗になりました。最後に各班の全員で綺麗になったクロマツ林を眺めて、目的を成し遂げた達成感を感じとっていたようでした。

最後に、生徒代表の挨拶では、クロマツ整備を今後も後輩に引き継ぎ、庄内海岸林を未来に残して行きたいと決意表明がありました。

